

北関東支部開催オープンスクール

開催日時： 2009年10月25日(日)

開催場所： 日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所

1. 概要

北関東支部主催のオープンスクールを、例年同様に、日本原子力研究開発機構・那珂核融合研究所の施設公開日に合わせて、同研究所内の会場を貸していただき開催した。インフルエンザの影響などが心配されたが、開催日は曇りから徐々に好天となり、837名という多数の方々の参加をもって大盛況のうちに幕を閉じることができた。(写真1)



写真 1 会場の様子

2. 出展企画

各機関からの協力をいただき6つの企画を出展した。来場者の大多数が子供連れの家族であり、子供達と一緒に大人も楽しめるようなクイズや実験と内容も豊富でそれぞれの機関で工夫を凝らしたものであった。

(1) 電気のこと知ってる？ (日立製作所 エネルギー・環境システム研究所&エネルギーを考える会 ひまわり)

静電気で回る不思議なフランクリンモーター作り。原子力発電でできた電気が家に届くまでをたどるイライラ棒ゲームなど。

(2) あら不思議！色が変わるビーズストラップ作り (原子力機構 核燃料サイクル工学研究所「スイートポテト」)

- ①ポスターを使って、紫外線と放射線の関係について説明した。②紫外線が当たると色が変わるビーズを使ったビーズストラップ作り。
③放射線測定器“はかるくん”とコンブや肥料などの測定試料を展示し、参加者に自由に測定体験をしてもらった。

(3) 熱と圧力を体感しよう！！ (原子力機構 那珂核融合研究所)

真空中にお菓子を入れ袋が膨らむ実演。赤外線カメラを用いたサーモグラフィで手のひらやライターなど様々な温度を大型画面モニターで観察。

(4) 原子力発電のしくみ (日本原子力発電(株))

アクリル製の原子炉の模型で、容器内の水が沸騰してその蒸気で羽根車が回り、原子力発電の仕組みを見せるデモンストレーションや様々な方法で発電する発電機の実演。また、原子力発電関連のクイズの実施。

(5) 水素で遊ぼう！ (原子力機構 大洗研究開発センター)

ペットボトル、鉛筆の芯、スポーツドリンクという身近なもので燃料電池を実際に作り、電気分解で水素と酸素を発生させ、今度はその水素と酸素から電気を発生させて電子オルゴールをならす。また、燃料電池車を動かす。

(6) 液体窒素と超伝導で遊ぼう (東京大学 原子力国際専攻 寺井鈴木研究室)

液体窒素で冷やした超伝導体で磁石を浮上させる実演や液体窒素でカチカチに凍らせたバナナやマシュマロの硬さを体験してもらった。

例年と同様、子供向けにキャラクターの風船を配布したことで、子供連れのご家族をたくさん呼び込むことが出来た。(写真2)



写真2 キャラクター風船配布風景

3. アンケート調査

会場でアンケート調査を行い 240 件の回答をいただいた。回答者の割合は大人の方が 88%、小中高生が11%、男性が 45%女性が 55%であった。「内容はよくわかりましたか」の問いに対して「わかりやすかった」が 76%、また、「教え方はどうでしたか」に対しては「ていねいだった」が 96%と好評で、これもひとえに出展に協力して下さった講師の方々のご尽力の賜物である。「このオープンスクールに参加して原子力についての考えが変わりましたか」に対して「良い印象が変わった」が 74%、「原子力についてもっと知りたいと思いますか」に対して「もっと知りたい」が 85%と、オープンスクールという実践的なふれあいの場が、一般の人々に原子力を理解し興味を持っていただく上でも非常に有効な役割を果たしていることを物語っている。

4. おわりに

今年は会場で遊んだ後風船を渡すようにしたので、参加の皆さんは各コーナーの実験や体験に集中できたようであった。開場2時間ほどは場内が親子連れで溢れてんご舞いだったが、たくさんの方においでいただき展示する側も楽しむことができた。最後になりますが、お忙しい中で出展にご協力下さいました関係者の方々に深くお礼申し上げます。

平成 21 年度オープンスクールアンケート調査結果

今回の企画に足を運んでいただいた参加者に、オープンスクールの感想についてアンケートへの協力をお願いした。回答数は 240 件で、昨年度の 209 件よりも上昇し、かつ参加者数が減少したことに伴い、参加者数に対する回答数の割合は 29%と昨年度の 21%から増加した。

オープンスクールの目的は、原子力の普及や、そのために取り組んでいる我々の活動について地域の理解を得ることだと考えている。アンケートの結果からは、

- ・ 企画の内容について； わかりやすかった(76%)
- ・ 参加しておもしろかったか； おもしろかった(96%)
- ・ 原子力についてもっと知りたいと思うか； もっと知りたい(85%)

などの感想が得られ、オープンスクールの目的を果たすと共に、原子力やエネルギー問題についての啓蒙活動の一助になったものとする。

以下に集計結果を示す。



